

日本各地をおとずれた雪舟^{せつしゅう}

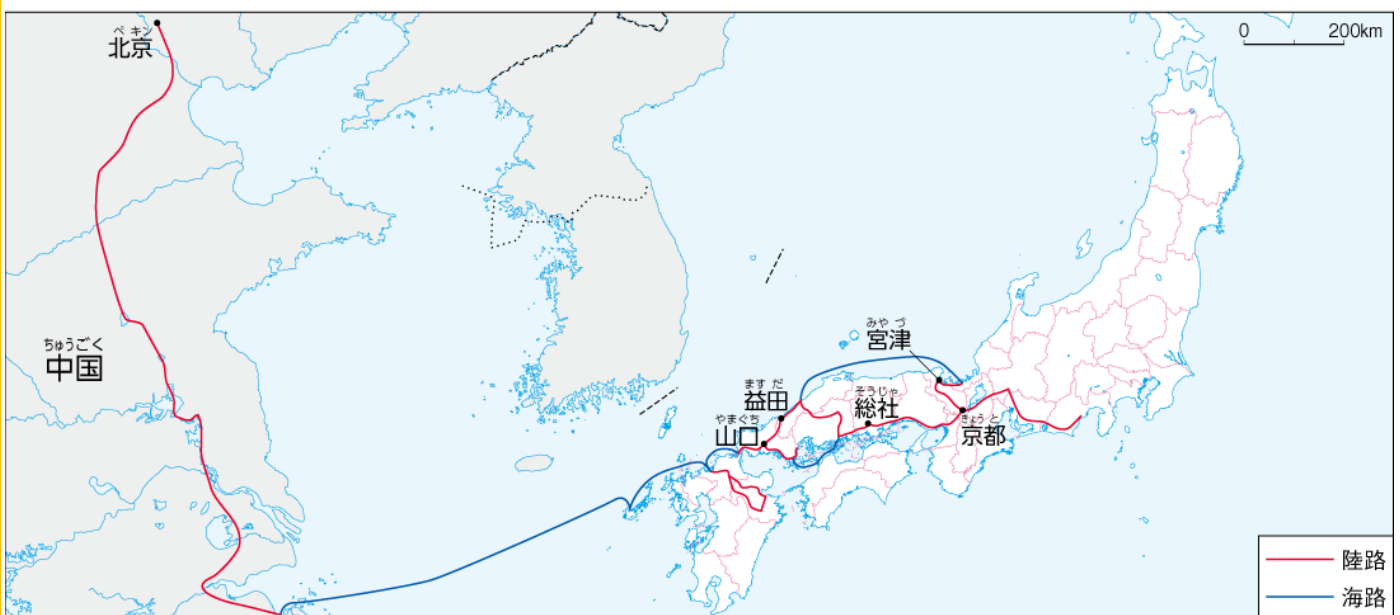
水墨画の技法は鎌倉時代^{かまくら}に中国^{ちゅうごく}から伝えられ、雪舟によって日本ふうの水墨画が完成されました。雪舟は各地をおとずれながら水墨画をえがきました。雪舟がどのような場所をおとずれたのか、年表や地図から調べてみましょう。

国内外の各地をおとずれ、技術をみがいた雪舟

雪舟は、僧^{そう}として寺で修行をしながら、水墨画の技術を学びました。当時、中国から伝わった禅宗^{ぜんしゅう}という仏教が武士の間で広がっていました。水墨画は、禅宗と深い関係があったのです。中国へわたった雪舟は、本場の水墨画について学びました。帰国後は、日本各地を旅して風景をえがき、おとずれた地域^{ちいき}で弟子たちに水墨画の技術を教えました。また、日本の美しい自然を表現した庭園づくりにも力を入れました。

- | | |
|------------|---|
| 1420年(0歳) | 備中 ^{びっちゅう} （現在の岡山県 ^{おかやま} ）の武士の家に生まれる。 |
| 1430年(11歳) | 出家して宝福寺 ^{ほうふくじ} （現在の岡山県総社市 ^{そうじゃ} ）に入る。
京都 ^{きょうと} の相国寺 ^{そうこくじ} に移る。将軍 ^{しょうぐん} に仕えて絵をかいていた僧 ^{しゅうぶん} の周文 ^{しゅうぶん} に弟子入りする。 |
| 1463年(44歳) | 周防 ^{すおう} （現在の山口県 ^{やまぐち} ）に移り、守護大名・大内氏 ^{しゅごだいみょう おおうちし} のもとで絵をかく。 |
| 1467年(48歳) | 中国へわたり、水墨画を研究する。中国の風景に感動し、各地の景色をかいてまわる。 |
| 1469年(50歳) | 中国から帰国する。中国で学んだ絵の技法を取り入れ、日本ふうの水墨画を完成する。
豊後 ^{ぶんご} （現在の大分県 ^{おおいた} ）や石見 ^{いわみ} （現在の島根県 ^{しまね} ）でも活動する。 |
| 1481年(62歳) | 美濃 ^{みの} （現在の岐阜県 ^{ぎふ} ）へ旅行する。日本各地の風景をかいてまわる。 |
| 1501年(82歳) | このころ、丹後の天橋立 ^{たんご あまのはしだて} （現在の京都府宮津市 ^{きょうと みやづ} ）へ行き、「天橋立図」をかく。 |
| 1506年(87歳) | 石見の益田 ^{いわみ ますだ} でなくなる。 |

↑ ㊦ 雪舟に関する年表



↑ ㊦ 雪舟がおとずれた主な地域